

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2090100120		
法人名	(有)長野カイゴサービス		
事業所名	桜の園グループホーム		
所在地	長野市桜新町724番地		
自己評価作成日	平成28年10月13日	評価結果市町村受理日	平成29年3月28日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 福祉事業部
所在地	長野県松本市巾上13-6
訪問調査日	平成29年2月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

桜の園グループホームは隣接する協力病院と連携を取り体調管理に気付けて介護させて頂いております。コンセプトである「ゆっくり・のんびり・にっこり」のもと、利用者様の笑顔での生活を1番に考え日々努力しています。地域との関わりも公民館行事への参加や音楽リハビリ(地域の方)の受入など連携をとっている。現在介護度1~5と状態の異なる利用者様にそれぞれ食事、入浴などに対応させて頂いております。大型のエレベーターでベッドも使用可能、機械浴の設備も活用しており、重度化にも対応しています。安全に配慮し、2階からの避難経路として広めのベランダと非常階段が新設されました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、住宅街にあり、協力病院の隣に位置する二階建ての建物である。二階からの避難経路として、鉄筋の外階段と避難場所として活用できるベランダが設置され、非常時の安全面に配慮されている。ご家族や馴染みの方の面会もあり、地域からの入居や、地域公民館行事への参加など事業所の存在が地域の中で認められてきている。看護師が週一回勤務し、顧問医師や隣接の協力病院の存在など医療体制が充実しており、看取りの事例もあり、ご家族の安心につながっている。ゆったりとした陽当りの良い居間、広い廊下や居室で職員とゆっくり、のんびり過ごす毎日からは、利用者のにっこりが生まれている。行事などにおける利用者の笑顔の写真からは、職員が大事にしているケアがうかがわれる。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(1F)		項目		項目	
項目		取り組みの成果 該当するものに印		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらい			2. 家族の2/3くらい
		3. 利用者の1/3くらい			3. 家族の1/3くらい
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. たまにある			3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらい			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらい			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらい			2. 職員の2/3くらい
		3. 利用者の1/3くらい			3. 職員の1/3くらい
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらい			2. 利用者の2/3くらい
		3. 利用者の1/3くらい			3. 利用者の1/3くらい
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらい			2. 家族等の2/3くらい
		3. 利用者の1/3くらい			3. 家族等の1/3くらい
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらい			
		3. 利用者の1/3くらい			
		4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>理念はグループホーム内の廊下に掲げてあり、事業所としての理念を管理者と職員が共有して日常の介護に活かすようにしている。</p>	<p>コンセプトとしての「ゆっくり、のんびり、にっこり」が掲示され、管理者、職員が共有して、日々の支援に活かしている。</p>	<p>理念をパンフレット、ご家族向けの文書などにも記載し、事業所全体で言葉としても共有していくことが望まれる。</p>
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域の自治会に加入し、公民館での文化祭やふれあい会などに参加して交流を深め、地域のボランティアの方々の受け入れも少しずつ始まっている。</p>	<p>町内会に加入し、公民館での文化祭に参加、獅子舞を玄関先で踊って頂き事業所全体で観覧などのおつきあいがある。日常的な交流が困難な方の事情にも配慮して、地域とのつながりを検討している。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地域の行事に参加したり、地区消防団の方や、役員の方などに見学して頂き、理解を深めている。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>区長、民生委員、市の担当者、地域包括センター、家族会会長を迎え、年6回を目標に意見交換や指導を頂きサービスの向上に努めている。</p>	<p>奇数月第四水曜日の午前中を原則に、隔月で開催している。市の担当課職員と地域包括センター職員、自治会役員、家族会会長、職員などの参加を得て、事業所の現状を説明し、意見交換を行っている。</p>	<p>会議録の充実(出席者の出欠記録、議事内容、意見の記録など)と関係する事項に付いての職員、家族への報告が望まれる。</p>
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議にも参加頂いたり、連絡や相談は常に行い、協力頂いている。</p>	<p>市の担当課職員などに運営推進会議に参加して頂いている。市の担当課、担当者とは、報告、連絡など実施している。</p>	<p>市の介護保険事業者対象の研修会や会議への事業所担当者の出席が望まれる。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、虐待防止の研修を受けてプリントを全職員に配布し、開かれたグループホームを旨指し介護に役立てている。日中の玄関は常に出入りが自由になっている。現在、身体拘束者はいない。	利用者の行動とそれに対する職員の支援方法が身体拘束にあたらないか、職員同士で検討している。また、新人職員には、その職員に合わせて、管理者が指導している。身体拘束と危険防止の観点から身体拘束をしないケアを職員一丸となって取り組んでいる事例をうかがった。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待、心理的虐待、共に全職員が意識し注意している。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個人の権利を擁護することは重要であり、研修資料を職員が共有し、理解を深めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には、必ずご本人、ご家族に見学して頂き、契約内容の説明後は十分に理解頂いたか、不安を取る為の話し合いも行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会が多いのでその都度職員が付きご意見や思いを聞いている。家族会での意見交換も大切にし、要望に答えるようにしている。	年に一回の家族会の催しには、ほとんどのご家族が参加し、利用者と居室でお昼と一緒に食べて頂いている。家族からのご意見、要望は、日誌やノートに記録し、職員で共有している。	利用者の様子(預り金の確認も含めて)を、定期的にご家族に文書で報告または確認頂くなど、記録方法の工夫を期待したい。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案の疎通性は良く、全員参加のミーティングは出来ていないが、機会があるごとに問題を取り上げ、納得のいくまで話し合い、前に進んでいる。	ユニットごとに職員、管理者の意見交換は朝夕の申し送りや連絡ノートを活用して実施されている。交替勤務であり、全職員参加の会議開催が困難な現状である。	代表者と管理者、ユニット同士の運営に関する意見交換の会議、さらに事業所内での組織体制の明示が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	良好な人間関係から、良い環境が出来つつあるので、やり甲斐のある環境になっている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	多人数での研修はなかなか実現しませんが、個別での研修を職員間で共有している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者として地域のグループホームとの交流は今後深め、情報交換に努めていきたい。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安を抱えての初期段階には、全職員が傾聴を心掛け、気持ちに寄り添い信頼関係を作ようとしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との連絡も密にして、様子をお伝えし、利用者、ご家族の不安な事などにも、耳を傾けている。利用者ご家族とは、良い信頼関係にあると思う。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者やご家族の求めていることを把握し、支援の方向を決めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の心に重過ぎない介護を心掛け、共に生活し、笑い合える関係として「ゆっくり、のんびり、にっこり」と過ごしていきたいと思っている。ホームのコンセプトでもある。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の気持ちにも寄り添いながら、利用者を理解し、共に支えあつての支援を目指している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方々の面会も自由ですので、友人、ご親戚の方々の面会が多くあり、共に過ごす時間を大切にしている。また、ご家族との外出、外泊を楽しみにしている利用者もいる。	ご家族との関係や協力が中心であり、共通の趣味の友人と面会、ご親戚と面会もある。自宅への外出、家族との外出を楽しみにしている方もおられる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ほとんどの利用者が日中はホールで過ごしていますので、利用者同士の会話や支え合いが出来るように職員も関わった支援をしている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方はそれぞれ適切な支援や医療機関に恵まれているのでその後の支援は特にしていない。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の入居前の生活暦や価値観、趣味などを把握し、無理のない楽しみをもって生活できるように心掛けている。	連絡ノートを活用し、職員間で検討している。家族に話をうかがい、可能な範囲で本人からも聞き取り、生活の中で検討に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の本人からの聞き取りと、ご家族からのお話や、日々の会話の中から生活歴などの把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	共に過ごす中で、本人の希望に出来る限り添えるように、一日の過ごし方を考える様になっている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人ひとり介護計画を全員で共有し、日々の申し送りを居室担当の意見を反映しながら介護日誌の評価を元に、モニタリング等から課題を見つけ、介護計画を立てている。	介護計画からモニタリング、評価、毎日の支援の実施記録と、検討結果が記載された連絡ノートなど記録方法、期間も統一されていないが、利用者の変化に合わせて日々記録されている。家族にも、面会時を活用して、話し合いや意見を頂いている。	現状に即した介護計画となるように、モニタリング、評価、ケアの実施、定期的な計画の見直しのサイクルの確立と記録様式の統一が期待される。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録やバイタルの他に排便や食事量、水分量など個別管理をして体調に合わせて介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族や友人との外出や外泊の支援をし、美容室への外出等、それぞれの希望に少しでも添えるようにしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方の音楽ボランティアなどの参加をお願いし、楽しみの時間が少しでも多く取れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力病院が隣接しており、かかりつけ医による日々の健康管理も出来ている。歯科医院は往診対応もしており、専門医院はご家族の協力を得ている。</p>	<p>かかりつけ医は、ご家族、本人の希望を尊重し、顧問医師にも、日常的に健康管理をお願いしている。また、協力病院の医師や看護師の協力を頂き、適切かつ迅速な受診を支援している。協力歯科医院に往診も依頼している。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>日々の服薬の分包や管理は看護師が行い、利用者の体調に対しては、職員・看護師・医師との連絡がスムーズになっている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入退院時は情報提供書などにより詳しい情報を交換して良好に行われている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>現在、ご家族からの希望により重度化した利用者の介護も行っているため、ご家族、医師を交えての話し合いを何度も行い、気持ちに寄り添うようにしている。</p>	<p>重度化や終末期に向けた指針が作成されているが、活用はあまりない。ご家族、医師、看護師、関係者、職員と連絡を密に行い、看取りに向けて取り組んでおり、ご家族の気持ちに寄り添うことを心掛けている。今までに複数の看取りの事例がある。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時の対応は全職員で理解に努めているが、ほとんど隣接病院の担当医師に頼っている。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>スプリンクラーの設置も完了しており、全職員が火災訓練を行い認識を高めている。市の消防署による指導と共に、地域の消防団にも協力をお願いしている。</p>	<p>今年の訓練は2月に消防署の指導を受け職員と利用者で実施している。二階は、安全に配慮し、ベランダまでの避難となっている。災害時には、自治会に施設の活用など協力を申し出ている。</p>	<p>全職員が通報訓練を施設内で実施すること、食料や水の備蓄、火災以外の停電や地震、雪害など様々な災害を想定した防災計画や訓練の実施が期待される。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護は常に意識することを心掛けている。また、個人の尊重や誇りに対しては、親しみやすさとの関係で勉強が必要だと思っている。	家族と利用者の事情に配慮して、個人情報の保護には細心の注意を払っている。新人職員には、一人ひとりの尊重に対して、その都度、注意や指導を具体的にを行うように管理者は心掛けている。	申し送りだけではなく、職員に研修の機会を設定し、計画的な研修や伝達講習の実施が望まれる。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己決定出来るような声掛けになるように努力している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事とおやつ以外の時間帯は、個々のペースで生活しており、自立度の高い方で、洗濯、居室の片付けを行っている方がおり、見守りを行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪や爪の長さには常に気を配っているが、おしゃれとしての支援は、清潔優先になってしまっているため、楽しむ所までは行えていない。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養面の管理はしっかりしており、バラエティーにも富んでいるが、今は利用者と共に作る事が出来なくなり、食事介助が増えている。個別対応として、粥、きざみ、ミキサー食などにし、楽しみな時間になるように心掛けている。	食材は、献立が作成してある食材業者の配送を活用している。利用者のお手伝いも困難になってきており、職員がほぼ調理し、配膳している。生ものの希望は、ご家族の協力で、外出時などに楽しんで頂いている。介助も利用者の力を検討して、持てる力を活かす様な支援に努めている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量、栄養バランス、水分量とも個別に把握している。別メニューにも対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>介助の必要な人も含めて利用者全員が3食後に口腔ケアを行っている。義歯の方は夜間に消毒を行っている。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>車椅子の利用者も介助により立位が保てるうちは、夜間もオムツにせずトイレ使用を目標に職員が頑張っている。</p>	<p>利用者の思いに寄り添い、最後まで自分の力でトイレで排泄したいという思いに寄り添い、方法や時間など工夫して職員が連携し、支援に取り組んでいる。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排便管理は、個別の表にして行い、医師の連携により対応できている。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>一人週2回、全員介助のもと個別入浴を楽しんでいる。重度者は2人対応で機械浴を行っている。清潔を保つため、臨機応変な対応もしている。</p>	<p>機械浴の設備が1階に設置され、活用されている。週に2回の入浴を原則に、入浴の支援を行っている。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>夜間対応は、個別のリズムに合わせたトイレ介助をして、安全に眠れるように支援している。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>全職員がわかるように、個別服薬表と効能を張り出し、服用に対する確認に務めている。病状の変化については医師と連絡を取っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>利用者の得意とする編み物や塗り絵など、楽しみ方の支援をしている。役割として、洗濯物たたみ、新聞紙たたみなどをお願いしている。</p>		
49	(18)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>天候の良い日など、外庭で体操や、畑の野菜取りなどで気分転換が図れている。希望外出には、家族の協力も欠かさず頂いている。</p>	<p>夏には、畑で野菜の収穫を楽しむ機会もあった。個別の外出は、ご家族の協力が出かける方が多い。</p>	<p>現在、庭の整備工事が実施されている。完成後は、庭の散歩コースの活用が楽しみである。</p>
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ホーム内ではお金を使う事がなく、金銭の管理が出来なくなっている。必需品はご家族からの預かり金により揃えられている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ご家族の希望により、携帯電話所持の方も数名おりますが、ホームの電話取次ぎも行っている。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>日中ほとんどの利用者が過ごすホールは、皆の顔が見られるように集合テーブルにし、職員と共に過ごす空間作りに配慮している。また、毎月大型塗り絵を仕上げて、季節がわかるようにしている。</p>	<p>玄関、廊下、エレベーターはゆったり、広い造りである。トイレには手書きの貼り紙、車寄せから玄関に植物があり、特に二階からは周囲が見渡せ、明るい室内に季節の変化が感じられる。台所からは、料理の匂いが漂っている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>集合テーブル以外に、ソファ部分を2ヶ所作っており、気の合う利用者同士が座って語り合う姿が見られる。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室は、家族と本人の好みにより慣れ親しんだ家具を持ち込み、個々に趣があり清潔で居心地の良い空間となるよう清掃を支援している。	居室は、ベッドと造付けの棚があっても、車椅子の回転の容易な広さがある。ご家族の協力で、それぞれの好みのもの、使い慣れたものが持ち込まれている。面会の方も、一緒に居室で過ごすことができる広さである。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室からトイレやホールなどに手すりを使用して歩行が出来るようになっている。トイレも十分な空間がある。	/	/

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>地域密着、理念を共有し介護している。</p>		
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>開所して以来少しずつ地域の方にグループホームの存在を理解して頂けてきている。散歩の際地域の方と会話や挨拶も行なっている。近所の方に行事のボランティアに来てもらったり地域の行事にも少しずつ参加している。</p>		
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>推進会議に区長、民生委員などを通じて、地域に理解して頂いていると思います。地域での散歩等の際に挨拶を通じ顔なじみになって頂いている。</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>最近では施設内をみてもらい指摘、アドバイスを頂いております。今後も定期的に推進会議を行いたいと思います。</p>		
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>日常的には、認定更新時の訪問調査の日程調整するのみであって、サービスの質の向上に向けた取り組みはできていない。今後行政担当者との話し合いの機会を持って行きたい。運営推進会議を通して意見や質問をし参考にしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを全職員で確認し合っている。研修等は出来ていないが職員一人ひとりが理解していると感じている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当施設では虐待はないと思っている。更なる研修に参加し、防止に向け取り組んでいきたい。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人の問題は法律そのものに未だ欠点がある様な気がするが、もっと勉強が必要な気がする。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族の方に事前に見学や入居者との交流をし、安心頂くようにしている。契約内容を説明し、確認と、ご家族の意向や希望を聞いている。パンフレット等がない分施設の説明を丁寧に行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との面会の際、情報交換の機会となるよう努力をしている。「ご意見箱」をグループホーム内に設置し、意見を頂きホームの運営に反映させていきたい。年に1度家族会を開き直接意見を聞いている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見を言いやすい環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	現状問題点が多くありますが、代表者含め努力しております。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会には、今後参加して行きたいと考えています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今後の課題である。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	あせらず、ゆっくり対応している。無理強いはず、利用者の笑顔を大切にしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族を安心させるべく、細かく説明させて頂いております。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階では今までの生活暦の中にヒントがあると考えております。家族からお話をうかがうようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様にお手伝いをして頂いたり食事の味の感想も話し合ったりしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の「思い」を第一に考えて行動しています。利用者様と家族の間に入れればと考えております。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が切れないように努めています。外部からの訪問に対して自由に出入りできるようにしている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶の時間に利用者様を誘ったりしていますが拒否される利用者様もいます。無理強いせず色々な声掛けで行っています。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の都合で他の施設へ移られた方がいたが、特に家族からの相談等はないが相談があれば親切に対応していきたい。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や、行動の中から把握できるよう努めている。一人ひとりの思いを大切に、ケア会議で検討し反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の把握することの意味と重要性を家族に説明し、情報に努めている。一人ひとりの暮らしの把握に努力しています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	声掛けの際十分に工夫し、無理強にならないようにする。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状出来ていない事が多くある。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケア記録、バイタル、食事、服薬、排泄等の記録をし、情報を共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	なるべく、本人や家族の変化に応じて出来るだけ応用が効くよう心掛けている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を生かして介護の内容の向上を目指しているが、難しいところがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力病院が隣接している為に、非常にスムーズに適切な医療を受けられています。</p>		
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>協力病院の医師が努力しカバーしています。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>協力病院と連携が取れている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>未だわからないことが多く、病状によって、病院に入院したりしています。最近では施設でなくなる方も多くなってきている。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変や事故の発生の対策は不十分であると思いますが、勉強し経験しながら身に付けていきたい。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制度を築いている</p>	<p>昼夜を想定した災害訓練を行った。訓練の反省を糧にしたい。今後も定期的な訓練が必要と考えている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護について常に意識し、個人情報の取り扱いには気を配っています。未だ不完全で努力が必要である。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に「聴く」事を大切に考えています。上手く表現できない人には、選択してもらえよう支援している。更なる努力が必要であると思います。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムを大切にしながら、支援していくよう配慮している。職員の都合を優先せず、入居者の生活を優先出来るケアを目指すよう心がけている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	現状出来ているとは言い難い状況であるが利用者の意見は反映させるようにしている		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は楽しみの一つであるので、楽しんでいただけるよう心掛けています。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外部業者の食材宅配サービスを利用しているが栄養バランス、カロリーは十分考えられた物を使用している。特に水分摂取に気を配っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	三食毎に声掛けて行っている。自分で出来ない方は、介助にてケアを行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導の回数を増やし、トイレで排泄を行えるようにしている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘による心身の変化を理解し、排泄状況を把握し、スムーズな排便の為に援助を行っている。一部難しい方もいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決めていない。時間はその都度本人確認を行ってから入浴を行っている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠は適度な運動と安心した気分、休息を昼間から配慮し、夜ゆっくり眠れるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法等理解し、症状の変化に注意し確認し記録しています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その利用者の得意とすこと、喜ぶことなど活かして支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全員は無理だが、地域の行事に参加している。また、天候を考慮し出来るだけ散歩に出かけている。施設の周りを一周出来るコースを整備している。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は所持や使用の支援を行っていましたが、金銭の理解が出来なくなってきており、現在は行なっておりません。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者本人の訴えがある際は支援するようにする。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾り付けをし、季節感を感じて頂いている。廊下隅の居間には、ソファ、テーブルもあり、くつろげる空間がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでくつろいで過ごせるようにソファを用意してある。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの家具等持込、本人が居心地良く過ごせるようにしている。安全面を考慮して変更する場合がある。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態に合わせた援助をしている。		

目標達成計画

作成日:平成29年3月9日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	身体拘束やプライバシー保護への研修への参加を行う。	身体拘束やプライバシー保護の研修に参加する。	全員が同じ研修には参加できないので資料等を市の担当及び地域包括に協力していただきながら集めていく。	3ヶ月
2	2	火災以外の避難など対応を考える。	火災以外の対応を決めて職員に周知する。	まず、職員が対応に困ること、困る時を上げて頂き対策を考えていく。	3ヶ月
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。